

隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 12月号 第436号

082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

報恩講法要

講師 東広島 教正寺副住職 武田義香師

講題 「願い」

『夕暮は いかなるときぞ 目にみえぬ

風のおとさへ あはれなるかな』(和泉式部続集)

【通釈】夕暮とは一体どのような時なのか。目に見えない風の音さえしみじみと感じられるよ。

夕暮れ時は、寂しいものです。高齢者施設でお話を聞いたとき、面会者も帰り、職員も勤務が終わり、静かになる、あたりがだんだん暗くなり、人の顔もよくわからなくなる、そんな時人生の夕暮れを感じて寂しくなる。だから人恋しいそうです。僕はそれ以来、誰でも一番不安な寂しいときは夕暮れ時と思っていました。しかしこの前『シラネ病院』の白根先生のお話で、病人が入院していて一番寂しい、不安なときは夜中の2～3時というのを聞いてびっくりしました。夜中の2～3時という時間は真っ暗です。音もしません。側に誰れもいません。普通元気な人は眠っています。しかし病人は夜も昼もありません。寂しくて不安です。そんな時そばに誰かいて下さったら安心できます。だから仏さまがいて下さるのです。いつでもどこでも一番そばにいて、呼びかけていてくださるのです。なもあみだぶつと。

12月の法座予定

- 12月10日……………掃除 上平原1
- 12月14日昼席午後1時より……………報恩講法要
- 12月14日夜席午後7時半より……………出張法座 上平原集会所
- 12月15日朝席午前10時より……………報恩講法要 おとき
- 12月15日昼席午後1時より……………報恩講法要
- 12月31日午後11時より……………除夜会・修正会

百歳おめでとうございます

上平原の川野涉さんのお母さん、川野ミヤコさんが12月5日に満百歳を迎えられます。おめでとうございます。川野ミヤコさんは、明治39年12月5日、八本松で生まれられました。本当は7月生まれですが、届けが遅れたので12月になったようです。お宮さんの日というから、おそらく宮島の還元祭の日生まれられたので、ミヤコという名前になったのでしょう。妹さんと弟さんが居られて「早くなくなったのでその分まで私が長生きさせてもらいました。申し訳ないことです」とよく話しておられました。

おそらく16歳ぐらいで中野に嫁いでこられ、男一人と女六人の7人の子供さんに恵まれ、3人が早く亡くなられ、「子供が先に死ぬというのは悲しいことです」と涙ぐんで話されていました。孫は10人、曾孫は14人、ヒヒ孫は2人ぐらい居られるようです。はっきりとした数はよくわかりません。働き盛りが戦争中で、必死で家を守り、子供や孫を育ててくださったのでしょう。そのころは蚕を飼っておられたようで、今でも時々思い出して、話されます。85歳ぐらいまでお寺にはよく参ってくださいました。何があってもお寺には参りなさいと親に言われたそうです。身体が丈夫な方で、お医者さんに行かれたことが無いそうで、健康保険を使ったことが無いとのことでした。今年の7月まで、私がお参りしたときに、必ず後ろに座られ、一緒にお勤めをされて、「ありがとうございます」とお礼を申しておられました。8月から足が立たなくなり、お参りされなくなりましたが、休んでおられるところに顔を見に行くと、『ありがとうございます。もったいないことです』と手を合わせてくださいました。少しずつ足も回復しておられるようなので、またいつか後ろに座ってくださる日がきたらいいなと期待しています。



© 2005 TOSHIBA CORPORATION

一番の楽しみは夕食のときにいただける、一杯のお酒だそうで、これが長生きの秘訣かもしれません。僕もこれを見習って夕食のときのお酒を楽しみにしようと思います。百歳おめでとうございます。

除夜会 12月31日(日)午後11時～引き続き修正会

除夜会を行います。今年一年を振り返り、無事一年を過ごさせていただいたことに感謝しましょう。11時から本堂でお勤めし、引き続き鐘の前でお勤めいたします。除夜の鐘つきは11時半ぐらいからになります。12時過ぎから新年を迎えた『修正会』のお勤めをいたします。家族そろってお参りください。楽しいくじ引きもあるヨ。

御礼

永代経懇志 金 拾萬円 細工 要殿 故 細工 ナナ工様 特別永代経志として

御礼

門信徒会へ 金 一封 細工 要殿 故 細工 ナナ工様 香典返しとして

12月カレンダー 東井 義雄

お念仏以外に 救われようのない私

雑賀先生にはからずも講師でいらっしやいましてお目にかかることが出来ました。その時二冊の書物をいただきました。『浄土への旅』というのです。ご紹介しましょう。

そのお寺に御縁を結んで参上した時、その寺の御老院は全身不随の身を床に伏されて十数年目でした。何年も付き添って看病なさる奥さまに感動したのです。ちょうど可愛い孫に対するおばあちゃんの優しさの如く病人をいたわる奥さんを見て、私はこの方に男性の一人として、心からのお礼がいいと思ったのです。何年目かの御縁



のとき、夜の法話を終って部屋に帰った時、御挨拶にいらっしやつた奥さまに、「今夜、この場で一度奥さまに手をつかせていただけませんか。実ははじめて御縁をいただいた時は何も知らなかったのです。御老院が長らく寝ておられると開いて、枕もとへ おじゃまするようになってから、奥さんが御老院にお仕えなさるお姿を見て、すっかり感激して、実はその時 両手をついたかっただけけれど、何かおべんちゃ

らのように見られてもかなわんし、今日まで延ばしてきたのです。今夜こそ手をつかせてください。あれだけ御親切に看病なさる奥さまがいったい今の世に何人いるでしょうか、私は一人の人間として、素直に手をついて御礼だけいわしていただきたいのです」 私の言葉を聞いておられた奥さまの目がみるみるうるみはじめて、「何でもったいないことを、そんなことは冗談にもおっしゃらないでください」

「いや、本当に私は心から手をつかしていただきたいのです」
「そこまでおっしゃれば何もかも申します。私は手をついていただけるような女ではないのです。こうして長い間看病させていただいたのも私の力ではないのです。まったく老院さんのおかげなのです。老院さんは先生が枕もとに来てくださることを、とても喜んで、いろいろな話をまわらぬ口でなさっておいでですが、妻の私には、どんな用で、どんな時に入っても、おっしゃることはただ一つ、『すまんなあ、こらえてくれよ。お前にばかり迷惑をかけるなあ、御恩返しの一つも出来んで、こらえてくれよ』これだけしかいいなさらないのです。先生私語をします。朝ご飯を食べさせるのに小一時間かかるのです。

やっとの思いで台所に帰って、さあこれから私の食事。ゆっくりいただきますとお鉢に手をかけたたん、リリンとベルが鳴るのです。ちょっと来てくれという合図です。ああうるさいなあ。食事ぐらいゆっくりさせてくれたらいいのに。先生それどころか今日まで何べん思うてはならんことを思いましたことか。人間ではない鬼なんです。心がそうなのでから恐ろしい顔をしているだろうと思います。自然、声だっ荒々しく、『何か用ですか』と入っていくのです。その時 老院さんは、『こらえてくれよ、すまんなあ』

はっとして老院さんを見ると、目に一杯涙をためていらっしやるのです。この鬼がいつのまにか老院さんの枕もとに手をつけているのです。すまんのはこの女です。老院さんのおかげで今日までこさせていただいたのです。あの老院さんでなかったら、一日だって勤まる私ではないんです。拝む手も、ひざまずく心もみんなもらいものなんです。お念仏がこうやって老夫婦を生かしてくださっているのです」

以上が雑賀先生のお話の一部です。お念仏がとどいてくださるとき、生きるも死ぬも越えた尊い世界が、私の世界になってくださるのです。

横川 弘樹（中学生） 中国新聞 9月11日の記事より

世界が今、平和だとは言えないでしょう。北朝鮮が地下核実験したという発表が世界中に大きなショックを与えました。米国やロシア、中国などの国々が核兵器を保有しています。海外では、戦争や内紛が絶え間なく引き起こされています。

日本は太平洋戦争で広島と長崎市に原爆を投下され、その年の終わりまでに被爆者二十万人以上が死亡しました。さらに、原爆症を患って長い間苦しむ人がたくさんいました。悲劇を二度と繰り返さないため、敗戦後は平和主義の国に変わりました。平和憲法をつくり、「核を持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則を基本方針にしています。

国と国が武力を使って争えば、必ず多くの犠牲者を出します。その恐ろしい戦争が、どこで起きるか分からないような状況になっています。

日本はかつて、中国大陸や東南アジアに兵を出し、たくさんの人命を奪いました。その償いをするためにも、日本は世界中の人たちに平和の大切さを訴えていかなければいけない、と私は考えています。

（広島市安佐北区）桑原 横川 美枝子さんの孫

